HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	平成19年度（第3回）医学部保健学科FDワークショップ報告 ： AO入試制度と編入学制度について考える
Author(s)	武田, 直樹; 鷲見, 尚己; 横澤, 宏一 他
Citation	高等教育ジャーナル ： 高等教育と生涯学習, 16, 127-132
Issue Date	2008-12
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.16.127
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38793
Type	departmental bulletin paper
File Information	No1610.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

平成 19 年度（第 3 回）医学部保健学科 FD ワークショップ報告
― AO 入試制度と編入学制度について考える―

武田　直樹*,　鷲見　尚己,　横澤　宏一,　石津　明洋,
八田　達夫,　小林　清一
（北海道大学医学部保健学科 FD 実施ワーキンググループ）

北海道大学大学院保健科学研究院

A Report on the Third Workshop on Education in the Department of Health Sciences, Hokkaido University School of Medicine

Naoki Takeda**,　Naomi Sumi,　Koichi Yokosawa,　Akihiro Ishizu,
Tatsuo Hatta　and　Seiichi Kobayashi
(Faculty Development Executive Committee in the Department of Health Sciences,
Hokkaido University School of Medicine)

Graduate School of Medicine, Hokkaido University

Abstract — The third workshop on education in the Department of Health Sciences of the Hokkaido University School of Medicine was held in September 2007. The main theme of this year's workshop was to think about the admission-office entrance examination and transfer-admission entrance examination in the Department of Health Sciences. The workshop had: (1) two lectures, one about the education system in Finland, and one about the current conditions and problems of the entrance examination in Hokkaido University, (2) two mini-lectures about e-learning, (3) two reports about the FD workshops in Hokkaido University in 2006 and 2007, and (4) small group discussions and a general discussion about the admission-office entrance examination and transfer-admission entrance examination in the Department of Health Sciences. It had 50 participants from the faculty of the department. This report contains an explanation about what was done in the workshop

(Received on 1 February, 2008)

*) 連絡先：060-0812 札幌市北区北 12 条西 5 丁目　北海道大学大学院保健科学研究院

**) Correspondence: Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, North 12 West 5, Kita-ku, Sapporo 060-0812, Japan,

1. はじめに

医学部保健学科では平成 17 年度（第 1 回），平成 18 年度（第 2 回）と 2 回にわたり医学部保健学科 FD ワークショップを開催してきた（境 2007）。今回平成 19 年度（第 3 回）FD ワークショップが開催されたので報告する。

2. 研修内容

平成 19 年 9 月 14 日（金）に北海道大学百年記念会館にて，「AO 入試制度と編入学制度について考える」をテーマで，開催された（表 1）。参加人数は部分参加も含めて 50 名（全教員の 66.7%）であった。これは，1 回目，2 回目の 73.8%，75.3% に比べるとやや少ない人数であった。

基調講演 1 では，北海道大学高等教育機能開発総合センター 入試選抜研究部の池田文人先生から「社会に接続する教育 ~ 学力世界一のフィンランドに学ぶ ~」という題で 40 分間の講演をいただいた。日本とフィンランドの知識観の違いについて述べられた。日本では教科書や教師の知識を正解として提示し，それを裏付ける状況を生徒たちに提供し知識の習得を計るのが教育である。一方，フィンランドでは知識はそれを獲得する主体である生徒たちの中で知覚され，認識され，思考され，行為により獲得されるものであり，教育は様々な情報資源を提供し，その知識獲得プロセスを促すものだというのである。そして現実の生活の中で生じる問題に対処していくにはフィンランド型の方が望ましいという意見であった（池田 2007）。

基調講演 2 では，同じく池田先生により「伸びる学生，伸びない学生 ~ 入試の現状と課題 ~」という題での講演があった。人生や進路の岐路において自分の意志で決定することがその後の成績の伸びに関連していた。また編入試験については，編入志願者の少ない専攻や質の高い編入学者を獲得するためにはもっと大学から多くの情報を発信する必要があると話された。

ミニレクチャーは，e-learning に関してであった。保健学科での e-learning ワーキンググループの行ったアンケートでは，回答者の 7 割近い教員が e-learning の活用を希望していた。今回の FD の事前アンケートでも，e-learning に関する講演を希望する教員が多かった。北海道大学全体また保健学科としての取り組みはまだ始まっていないが，近い将来導入が考えられ，当学科教員の間でも興味の的になっている。

ミニレクチャー 1 は，北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻 鈴木久男先生による「物理における e-learning」であった。e-learning のこれまでの歩みと今後先生がやられていく e-learning の展望を示された。e-learning のことをあまり知らない多くの聴衆にとって有益なレクチャーであった。

ミニレクチャー 2 は，保健学科検査技術科学専攻 加藤千恵次先生による「保健学科における e-learning の実践」であった。物理系の講義や実習を支援するためにホームページを開発運用し出席率向上，成績改善，および授業内容の改善があったと報告された。また web を利用したプログラミング言語教育は有用な方法であったことも報告された。ホームページの開発運用は慣れない者にとっては難題と思われたが，安価で少しの労力で大きな成果が得られることを演者は強調されていた。

午後は，検査技術科学専攻の山口博之先生による「平成 18 年度北海道大学 FD ワークショップ参加報告」が行われ，また放射線技術科学専攻 横澤宏一先生による「平成 19 年度北海道大学 FD ワークショップ参加報告」が行われた。

13:30 からは，「北大医学部保健学科にふさわしい AO 入試制度と編入学制度」というテーマでグループ討論とその結果発表・全体討論が行われた。そこでは各小グループに AO 入試制度のための募集要項（定員，求める学生像，出願資格・要件，選抜方法）を策定してもらい，編入学制度ではその問題点と対策を挙げてもらった（表 2）。

保健学科の求める学生像（アドミッションポリシー）は，大きく分けると 3 つに分類できた。一つは学力を含めた能力，二つ目は受験生の性格的なもの，三つ目は受験生の意欲・目的意識である。能力では，基礎学力があることは勿論であるが，コミュニケーション能力が強く求められていた。その他は，自己表現能力，課題解決能力，英語力などである。性格では，リーダーシップがあることが強く求められていた。その他として，人を思いやれる，人への

表 1．第 3 回（平成 19 年度）北海道大学医学部保健学科 FD ワークショッププログラム
テーマ：　AO 入試制度と編入試験について考える

8:45	百年記念会館集合 受付開始
8:55	開会の辞 ガイダンス
9:00	保健学科長挨拶
9:05	基調講演 1「社会に接続する教育 ~ 学力世界一のフィンランドに学ぶ ~」 北海道大学高等教育機能開発総合センター　池田文人 先生
9:45	質疑応答（10 分）
9:55	基調講演 2「伸びる学生，伸びない学生 ~ 入試の現状と課題 ~」 北海道大学高等教育機能開発総合センター　池田文人 先生
10:35	質疑応答（10 分）
10:45	< 休憩 >（10 分）
10:55	ミニレクチャー 1「物理における e-learning」 北海道大学大学院理学研究院 宇宙理学専攻　鈴木久男 先生
11:25	質疑応答（10 分）
11:35	ミニレクチャー 2「保健学科における e-learning の実践」 北海道大学医学部保健学科検査技術科学専攻　加藤千恵次 先生
11:55	質疑応答（10 分）
12:05	昼食
13:00	報告（30 分） 「平成 18 年度北海道大学 FD ワークショップ参加報告」 北海道大学医学部保健学科検査技術科学専攻　山口博之 先生 「平成 19 年度北海道大学 FD ワークショップ参加報告」 北海道大学医学部保健学科放射線技術科学専攻　横澤宏一 先生
13:30	グループ討論・発表についてのオリエンテーション（10 分）
13:40	グループ討論開始（100 分） 大会議室，第 1 小会議室，第 2 小会議室 （パワーポイントによる発表データの作成）
15:20	休憩（10 分）
15:30	各グループのプロダクトの発表・全体討論・講評（90 分）
17:00	閉会挨拶
	記念写真撮影，散会

関心がある，社会貢献・ボランティア・福祉活動に関心がある，活動的であり，明朗で，忍耐強く，体力があることが求められていた。受験生の意志では，健康・保健医療に興味があり，そこでやっていく決意・目的意識があること，探究心・知的好奇心があり高度専門職医療人や研究職を志向していること，国際的活動や新しい分野への興味をもっていることなどが求められていた。

保健学科の偏入学制度の特殊性は，対象を短期大学卒業生あるいは専門学校卒業生に絞っているところにある。そして入学志願者の数が専攻ごとに大きく異なっている。これが一つの要因となり，専攻に

表 2．第 3 回ワークショップ・グループ討論

目標	北大医学部保健学科にふさわしい AO 入試制度の設計と編入学制度について考える。
課題	近年，少子化の時代の中で，大学では優れた能力と意欲のある学生を確保するために入試の多様化が必要とされ，AO（Admission Office）入試などが実施されている。AO 入試とは，出願者自身の人物像を学校側の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせて合否を決める入試方法である。北海道大学では，北海道大学の理念（フロンティア精神，全人教育，実学，国際性）を実現し，地球社会の未来を拓くパイオニアとして活躍できる素質を持った方を積極的に迎え入れるために AO 入試を実施している。アドミッションセンターでは，AO 入試について「高等学校卒業見込みの方を対象（教育学部のみ専門高校既卒の方も対象）に，受験生の能力や資質を多面的に評価する入試制度で，学力を含めた多様な個性・能カ・資質・適性・目的意識や意欲を，提出書類，課題論文及び面接等で総合的に評価する」としている。現在，教育学部，経済学部，理学部数学科・物理学科・化学科・生物科学科・地球科学科，歯学部，薬学部，工学部応用理工系，農学部農業工学科・農業経済学科，水産学部において実施されている。また，来春（2009 年度）には，AO 入試を実施する国公立大が，過去最多の 59 校（国立 82 校中 40 校，公立 73 校中 19 校）となり，全体の 40% 以上を占める。 一方，編入学制度は，現在の社会情勢，社会的ニーズを背景に，多くの保健医療系大学で実施されている。しかし，受験者数の減少，編入学生の学力の問題などの課題が明らかになり，編入学制度を廃止する大学もある。そこで，本ワークショップ・グループ討論では，「保健学に関わる知的能力と意欲に優れた保健医療人の養成」の目的にふさわしい「AO 入試制度」導入と，「編入学制度」の在り方について検討する。AO 入試については，保健学科におけるアドミッションポリシーを議論し，具体的な募集人員，求める学生像，出願資格・要件，選抜方法を決めること。編入学制度については，現状の問題点や課題について検討すること。
結果の発表	議論した内容について PC と液晶プロジェクターを使って発表する。 1 グループの発表時間は 1O 分，質疑応答 5 分とする。 注意： ・グループリーダーの方は事前に役割分担（議長・書記・タイムキーパー・発表者・PC 係等）を決めてください。 ・FD ワークショップ実行委員は，タスクフォースとして討論の支援に努めます。 ・「AO 入試」については「アドミッションポリシー」について議論し，募集人員，求める学生像，出願資格・要件，選抜方法をまとめてください。「編入学入試制度」については「現在の問題点や課題」について議論し，検討結果をまとめてください。 ・グループ討論終了後，発表者はデータを USB メモリに保存し，発表者専用 PC を利用しプレゼンテーションして頂きます。発表者用 PC には OS として MS-Windows XP，プレゼンテーション用ソフトウェアとして MS-Power Point 2003 がインストールされています。 ・Mac でデータ保存および発表の方は付属のアダプターを忘れずに持参して下さい。 ・各グループのデータは，FD ワークショップ実行委員で保存させて頂きます。また，報告書に掲載する予定です。

表 3．第 3 回保健学科 FD ワークショップ総合評価

1．今回のワークショップを全般的に評価してください。

(1) 内容の価値についてどう評価しますか。	価値なし	少ない 6%	いくらかあり 30%	かなりあり 52%	極めてあり 12%
(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。	多すぎ	やや多い 18%	ほぼ適当 79%	やや少ない 3%	少なすぎ
(3) 内容の難易をどう感じましたか。	極めて難 6%	やや難 9%	ほぼ適当 82%	少し易しい 3%	易しすぎ
(4) このような WS 形式の教育方法としての効果についてどう思いましたか。	なし	少ない 6%	ある程度 55%	かなりあり 36%	極めてあり 3%
(5) この WS の内容はあなたの興味に対して適切でしたか。	全く不適切 3%	やや不適切 6%	ある程度適切 48%	かなり適切 39%	極めて適切 3%
(6) この WS で示されたような教育学的方法を今後取り入れようと思いますか。	全くない	あまりない 15%	少し 取り入れ 55%	かなり 取り入れ 27%	大いに 取り入れ 3%
(7) (6) において「少し取り入れてみたい」より右の 3 つのどれかに○をつけた方は，現時点であなたの教育現場での実現の見通し	極めて難しい 3%	かなり難しい 14%	一部可能 72%	かなり可能 7%	全面的に可能 3%
(8) 今後ともこういう WS を持つことに対して	反対 3%	必要なし 3%	持ってもよい 30%	持つ方がよい 39%	是非持つべき 24%

2. 今回のワークショップ全体にわたり，とてもよかったと思われる点をご記入ください。

- フィンランドの教育 (教育理論，基本に関わる内容) の紹介は教育の原点を振り返る意味で良かった。
- 高等教育においても教育手法にヒントがあった。
- 大学教育における問題提起，自己評価の契機となる
- AO 入試や編入学の問題点や意義がより深く理解できた。

3. 今回のワークショップ全体にわたり，改善すべきと思われる点をご記入ください。

- 入試を FD で取り上げることに反対。教育方法を改善して行こうとするのが FD では？
- AO 入試，編入学制度に関する基礎的知識が各教員によってまちまち (問題意識，現状について)
- 拘束時間が長く，時間の短縮が望ましい。
- 資料が厚く立派であるが，内容をしぼっても可と思う。
- グループワークのテーマを少し早めに連絡しておいて頂けると準備もできるので良いのではないか。
- 同じテーマを 6 班で行うとかなり重複する発表内容になるので，2 つのテーマで 3 班ごとにテーマを分けた方がよい。

4. このワークショップの成果に関連して，今後実施したいと考えていることを箇条書きにして下さい。

- e- ラーニングの施行や準備
- より学習の効果をあげ，意欲・関心を高める教育方法の改善に取り組みたい。
- 学生が自主的に学ぶ，考える授業について再考したい。
- 編入学生の学力上の問題について，問題意識をもってみていく。

より編入定員に対する考えの違い（現状維持，削減あるいは廃止を希望）に現れていることが考えられる。入学志願者の少ない専攻では２年次編入への変更希望がでていた。入学志願者が少ないことへの対策は，保健学科から編入学に関する情報をもっと多く発信することとの提言がなされた。入学後の教育の問題では，編入生と在校生との学力格差に関しては個別指導を考慮したり，一般教養習得を希望して入学してくる編入生に対しては教養科目の一括認定の見直しという対策が挙げられた。

3. ワークショップ終了後のアンケート結果

FD 終了後のアンケート調査では，33 名（出席者の 66%）から回答が得られた。結果は表 3 に示す。内容については，94% がいくらか以上の価値があるとしていた。6% (2 名) では価値少ないとしたが，この２名では FD の内容と自身の興味の一致についての設問で，全く不適切とやや不適切との回答であり，今回の FD の内容が自身の興味と一致していなかった。またそのうちの 1 名からは，入試制度は FD のテーマとしては不適当との指摘を受けた。確かに「FD は授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施すること」と定義されるが，今回は教育を広い意味で解釈してみた。また入試制度を含めた学生教育に関する討論を多くの教員が一同に介して行う機会はほとんどなく，当科の FD はそれを行う非常に貴重な機会であった。FD の内容と自身の興味の一致に関する設問では，91% から自身の興味にある程度以上あっていたとの回答を得た。これは FD 前に参加者に対しアンケートを実施し，参加者の興味の動向を得ているためと考えられる。その他の時間量，難易度，ワークショップ形式の効果，ワークショップ形式の今後の取り入れ，今後の FD への参加に関しても，82%-94% の参加者の容認から賛成の回答が得られた。

4. 考案―今後へ向けて

保健学科の FD は，出席率の高いことも特徴である。この 3 回の FD を通じて高い出席率が得られた理由としては，

① 学生の夏季休暇に行う
② 学内あるいは大学の近辺で行う
③ 短時間（1 日）で行う
④ 事前にアンケート調査をする
⑤ 小世帯であること

などが考えられる。今後もできるだけ参加者の興味にあったテーマで，多くの参加者を得て，有意義な討論を行い，学生の教育に還元していきたい。

5. おわりに

最後に，なんといっても FD の成功を左右するのは，講師の先生のご講演の内容である。今回の FD が実り大きなものとして終了できたのは，それは取りも直さずご多忙の中ご講演をいただいた池田文人先生，鈴木久男先生，加藤千恵次先生，山口博之先生，横澤宏一先生のお陰によるものです。どうもありがとうございました。

文献

池田文人（2007），「フィンランドの教育における知識獲得プロセスに関する考察」，『高等教育ジャーナル ―高等教育と生涯学習―』15, 133-139

境 信哉，佐藤洋子，森山隆則，武田直樹，竹内文也，石津明洋，松野一彦（2007），「専門教育に特化した FD の意義」，『高等教育ジャーナル―高等教育と生涯学習―』15, 85-93